

第160話 講中碑 その1

中山町 歴史散策

このうち、講中と刻まれたものは結構多く、信者集団の規模と信仰の強さを知る上で参考になるものです。当町の

- ・ 天明8年 佐東彦右衛門
- ・ 金沢白山神社「庚申塔」
- ・ 文化2年 守谷庄吉
- ・ 他6名
- ・ 土橋村「湯殿山卅三度参詣 供養塔」
- ・ 安永9年 庄司万吉
- ・ 南小路「念佛供養塔」
- ・ 安永8年 浅倉勘助
- ・ 新田町「夜念佛供養塔」
- ・ 享保3年 服部義永
- ・ 文新田「妙法一字一石経」

当町にある供養塔に類する碑はおよそ80基を数えます。講については、年に1、2度の集まりのものから、庚申信仰のように60日に1度集まるもの、巳待講のような特定月の巳の日に会合を持つものなど、多種多様の参拜日がありました。講は、これらの石碑を心のよりどころとして建てたのですが、建立者の名を碑に刻んだものは少なく、ほとんどが人数を刻し、姓名を持つものは明治以降の現象のようで見えます。中には名前だけでなく、堂々と地名や姓名を刻んだものもありますが、次に掲げるように、その数は多くはありません。

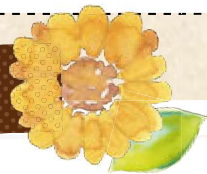
※引用 中山町史 中巻 第10章第1節 庶民と信仰

【用語の説明】  
巳待講・蚕を飼っている人が秋の巳の日の晩に集まり、念佛を唱えたり、直会をすること。

このように、講中の人数が明らかとなる碑が次第に多くなり、安政6年、北小路の「最上卅三観音供養塔」には「女人講中廿一人」（円同寺）とあるので、これは女だけの講で最上三十三観音を詣でた記念に建立したのであろうと考えられます。

講中碑は天性寺前の法華供養塔（明和4年）や安永8年新田町夜念佛供養塔（浅倉勘助講主）が古い建立となっております。寛政10年、土橋村月山神社境内の「太神宮碑」には、講中33人、同12年長崎村の「太神宮」には講中32人とある。これほどの講中は、掛金を持ち寄っても伊勢参詣のかなり人数はほんのわずかであろうから、大高持の参詣に講金を委ね、大麻をもらい受けて信仰の証とし、朝夕、通りすがりに、この大麻宮碑に祈願をこめたのであろうと推測されます。

私たちが地域おこし協力隊です！ No.26



こんにちは、地域おこし協力隊のサジキです。協力隊も今年からお仲間が増えまして、2月以来の久しぶりのコラムです。2月・3月は柏倉家の一般公開に向けた施設整備や、ひな祭りの展示準備、岡観音堂の仏像調査報告書の編集作業などをしていましたが、4月から新型コロナウイルスの影響によりほとんどの事業がおやすみ、そして私もエネルギー切れでおやすみ…。と、ちょっとしたリセット期間を過ごしていました。

そんなわけでご報告が遅くなってしまいましたが、昨年度実施した最上三十三観音第十四番札所「岡観音堂」の仏像調査報告書が4月に冊子として完成しました。この調査では、ご本尊である町指定文化財「木造十一面千手観音菩薩立像」を中心に堂内の仏像を全て調査しました。その結果、ご本尊は町内でも最古級の鎌倉初期時代の仏像であること、また十一面ではなく実は顔が十八面もあるという珍しい仏像であることが判明しました。ほかにも堂内には神社に納められているような男神像など、実に多様な像があり、「観音巡り」の巡礼地として様々な物が納められたのだなど実感しました。

協力隊の着任早々に「調査をしたい！」と依頼してから、冊子として後々まで残せる形になったことにひとまず安堵しています。調査報告書ですので正直読みづらいかと思いますが、パラパラ～と頁をめくり、気になった仏像の写真から興味を持っていただければ嬉しいです。※調査報告書は“ほんわ館”と“歴史民俗資料館”で読めます。



完成した調査報告書

(協力隊：サジキ)

●協力隊への問い合わせ先● メール：nakayamanonaka@gmail.com 事務所：中央公民館2階